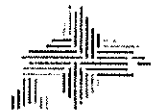


4 / 20 (火) の行事


はじめよう、つづけよう。

「北海道スタイル」

～新型コロナウイルスに強い北海道をつくる～ 北海道スタイル



報道発表資料の配付日時 4月16日(金) 15時00分

発表項目 (行事名)	「北海道e-水(イーミズ)プロジェクト」支援 団体の決定とキックオフミーティングの開催について		 北海道e-水プロジェクト
記者レクチャー のお知らせ	(実施日時)	発表者	
		発表場所	
概要	<p>○ 道では、平成21年(2009年)11月に北海道コカ・コーラボトリング株式会社と「環境保全に関するパートナーシップ協定」を締結し、平成22年(2010年)から、道内の水辺において環境保全活動を行う団体の事業に対し助成を行う「北海道e-水プロジェクト」を、同社及び(公財)北海道環境財団と協働で実施しており、令和3年(2021年)で12年目を迎えます。</p> <p>○ 令和3年(2021年)の助成事業には27団体から応募があり、選考委員会における厳正な審査の結果、21事業(団体)を選定しました。 これまで採択された団体数は延べ138団体になります。</p> <p><b>&lt;支援団体&gt;</b>(五十音順、事業概要等は別添一覧のとおり)</p> <p>e-水コース(※上限200万円)(8団体)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・石狩川流域 湿地・水辺・海岸ネットワーク</li> <li>・大沼ラムサール協議会</li> <li>・釧路自然保護協会</li> <li>・クッチャロ湖等保全対策協議会</li> <li>・栗山町ハサンベツ里山計画実行委員会</li> <li>・小松前川流域環境保全ネットワーク</li> <li>・特定非営利活動法人 しりべつリバーネット</li> <li>・深川ひきがえるバスターズ</li> </ul> <p>しずくコース(※上限10万円)(13団体)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・旭山自然調査隊</li> <li>・一般社団法人小樽セーリングクラブ</li> <li>・特定非営利活動法人 オホーツク自然・文化ネットワーク</li> <li>・コドモリくらす</li> <li>・渚滑川水系資源教育推進実行委員会</li> <li>・白老町環境町民会議</li> <li>・地域協働まちづくり会議高栄小校区 きずな</li> <li>・手稲さと川探検隊</li> <li>・十勝川中流部市民協働会議</li> <li>・公益財団法人日本野鳥の会 ウトナイ湖サンクチュアリ</li> <li>・特定非営利活動法人 ビオトープ・イタンキin室蘭</li> <li>・Friends of Shari River 斜里川を考える会</li> <li>・特定非営利活動法人北海道エコビレッジ推進プロジェクト</li> </ul> <p>○ また、今回採択された事業を実施する団体が集い、活動内容を発表し、情報を共有するための「キックオフミーティング」を次のとおり開催します。 ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、オンラインで開催します。</p> <p><b>日 時：令和3年(2021年)4月20日(火) 14:00～16:10</b> <b>会 場：オンライン開催(YouTube) ※事前申込み不要</b> URL <a href="http://www.heco-spc.or.jp/emizu/contents/contents03.html">http://www.heco-spc.or.jp/emizu/contents/contents03.html</a></p>		
参 考			
報道(取材) に当たって のお願い	キックオフミーティングの開催を広く周知するため、記事掲載等にご協力をお願いします。 また、新聞掲載やテレビ放映されることにより、民間団体等が行う水辺の環境保全活動や、行政・企業・環境団体による協働取組の重要性が広く認知されることから、積極的な取材にご協力をお願いします。		
他のクラブ との関係	同時配付：経済記者クラブ ※北海道コカ・コーラボトリング(株)が配付 同時レク：		
担 当 (連絡先)	(プロジェクト全般については) 環境生活部 環境局 気候変動対策課 気候変動適応係(課長補佐 菱沼) Tel(ダイヤルイン)：011-204-5197(内線：24-305) (団体の活動内容など具体的な事項については) (公財)北海道環境財団 Tel：011-218-7811 担当：内山		

# 『北海道eー水(イーミズ)プロジェクト』について

～北海道コカ・コーラボトリング(株)と道のパートナーシップ協定による取組～

## 事業概要

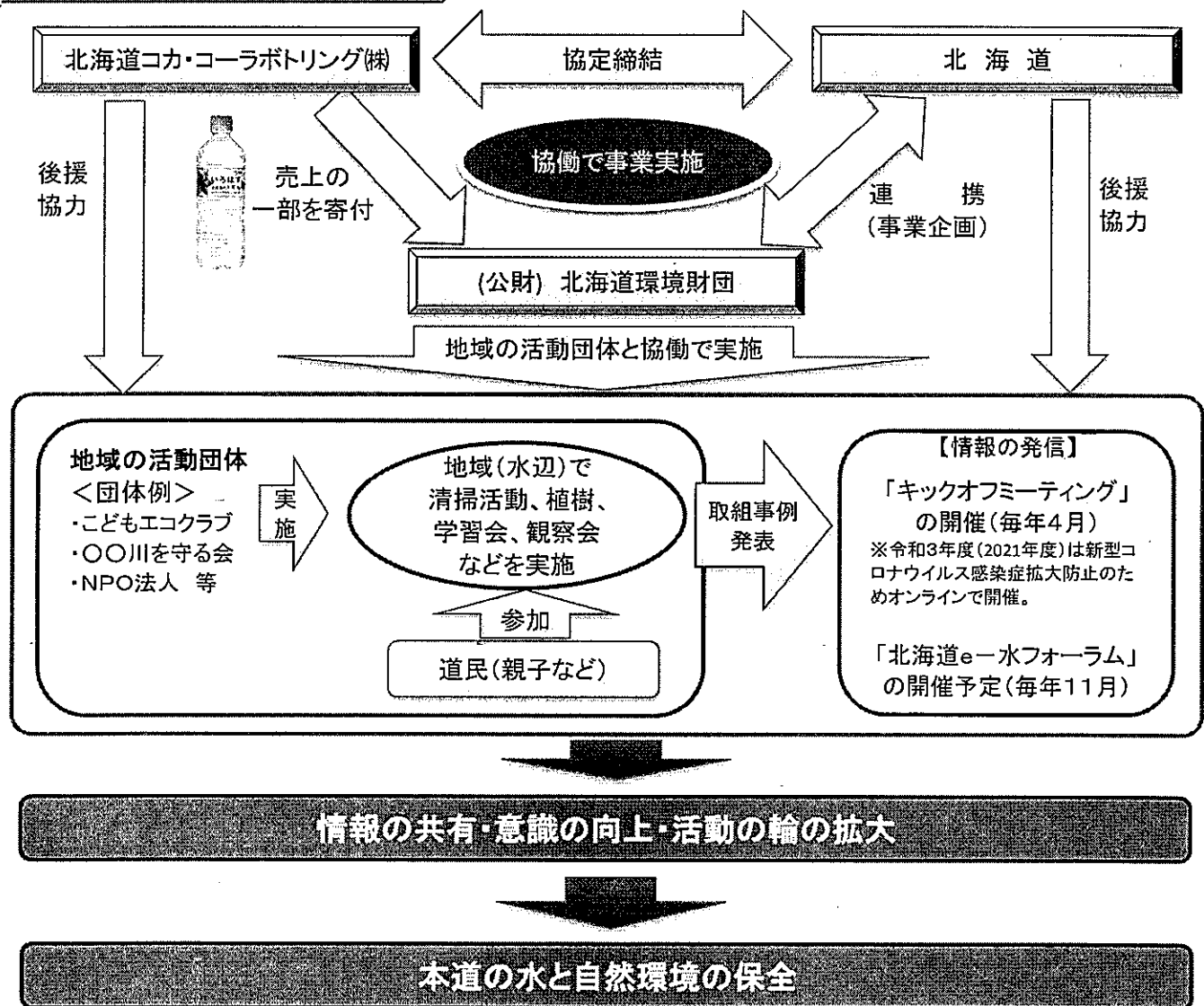
北海道コカ・コーラボトリング(株)から、同社の売上げの一部を北海道の環境保全に役立てたいとの趣旨の事業提案を受けて、道は同社と平成21年(2009年)11月20日に「環境保全に関するパートナーシップ協定」を締結しました。

「北海道eー水プロジェクト」は、この協定に基づく道、北海道コカ・コーラボトリング(株)、(公財)北海道環境財団の協働事業で、平成22年(2010年)から実施しています。

この事業では、同社が販売する「い・ろ・は・す 天然水 555ml」の売上の一部の寄付を受け、それを活用して、同社、道及び(公財)北海道環境財団の連携のもと、道内の各地域(水辺)において水質浄化活動や清掃活動などの環境保全活動に取り組む団体が実施する事業に対し助成するとともに、活動の輪を広げるための情報発信の場として、「北海道eー水フォーラム」を開催しています。

\*「eー水」とは、エコロジーをイメージする「e」と「きれいな水」というイメージを重ね合わせ、名付けたものです。

## 事業のイメージ





2021年北海道e-水プロジェクト 採択団体一覧表\_e-水コース(※上限200万円)

団体名	事業名	活動地域	事業概要
石狩川流域 湿地・水辺・海岸ネットワーク	浜厚真バイオブリッツ2021 ～キセキの海岸でホンキの生き物調査～	厚真町	大規模な風力発電施設が計画されている浜厚真の沿岸域において市民参加型の生物相一斉調査(バイオブリッツ)を行い、生物のインベントリと分布図を作成する。本活動は開発計画に直接的に反対するものではないが、活動を通じて貴重な沿岸湿地の価値と魅力について多くの人に体験、理解してもらい、開発の是非ややり方を考えるためのきっかけと判断材料にしてもらいたいと考えている。活動の成果物はミティゲーションの検討や開発前後のアセスメントの資料としても利用してもらい、エネルギー開発と生物多様性保全を両立する方法を検討するために活用する。
大沼ラムサール協議会	あそViva!まなViva!プロジェクト	大沼 (七飯町)	・研究者による専門分野を活かした環境教育イベントの開催 知の協働 大沼に所属している研究者が、自身の専門分野の活動を参加者に体験してもらい、この活動から何がわかるのか・どうして調べるのかなどを参加者へ説明する。参加者は、研究の一端に触れることで大沼をまた違う視点からとらえることができ、さらに今まで何となくであった大沼で起こる事象を論理的に理解できるようになる。対象は、大沼岳陽学校の児童・生徒とその関係者(保護者・祖父母など対象となる児童・生徒の面倒を見ることができる者、大沼岳陽学校教員、大沼岳陽学校PTAなど)。
釧路自然保護協会	釧路湿原自然再生事業 ～目標実現のための“保”と“再生”の取り組み～	釧路川流域 (釧路市)	(1)自然再生事業実施計画(自然再生推進法、2020年10月策定)に基づき、釧路川支川においてイトウ、サケ、マス等魚類の遡上障害(落差工)に魚道を整備する。これにより、イトウやサケ、マスなどの自然産卵個体群の増加および希少鳥類などの個体群復元を目指す。 (2)イトウ産卵河川上流における、河畔林や森林伐採による河川への土砂流入等、現在ある重要な生態系の環境機能を劣化させる行為が依然として頻発している。これらの課題について対応するため、釧路湿原自然再生協議会で2021年3月に新設予定の“重要な生態系保全のためのワーキンググループ(仮)”の取り組みを通じて、釧路湿原自然再生事業の目標達成を目指す。
クッチャロ湖等保全対策協議会	日本最北のお米作りチャレンジ! 水田ビオトープと湿地の恵みの創出	クッチャロ湖畔 (浜頓別町)	日本のお米作りの北限は逸別町であり、水田というビオトープは現在、浜頓別町に存在しない。しかし、一部地域では過去の土地利用に「田」という記録があることが分かっている。本活動ではハウスを用いて人工的な水田を創出し、過去に存在していた湿地ビオトープを形成、「はくちようもち」の栽培を行う。栽培に関する管理は浜頓別町の子どもたちと一緒に。はくちようもちは育苗から行い、田植え・稲の開花・稲刈り・脱穀・精米を通して水田が湿地であり、お米が湿地の恵みであることを学んでもらう。最終的には餅つきをして食す。また、うるち米を栽培している水田を訪問して、農家の方や地元の子どもたちとの交流会も開催したい。
栗山町ハサンベツ 里山計画実行委員会	火薬庫の沢 子どもいきもの調査隊 ～見て・感じて・調べて・かわる～	夕張川流域 (栗山町)	ハサンベツ里山において、子どもが自由に活動できるフィールド、生きもの豊かな川で学習し、遊べる環境を整えることで、五感を使った原体験やいい川づくりへの意識の醸成、親子をはじめ地域住民を含め幅広い年代の交流及び川や水の大切さを知ることきっかけとし、郷土に愛着と誇りを持つ青少年の育成に貢献する。 ①ハサンベツ里山・火薬庫の沢まで約1.5kmに及ぶ沢地の水路の状況確認と動植物の生息・生育調査 ②ホンザリガニの生息域保全活動 ③減少の一途をたどる道央部のヘイケボタル生息地を守り拡大し、北海道一のヘイケボタルの里を目指す 上記に係る調査・保全作業・取り組みのまとめ・持続可能な事業展開を目指し活動を実施していく。
小松前川支流域 環境保全ネットワーク	いにしへの水辺を守る	小松前川流域 (松前町)	小松前川の本流は、日本海に注ぎ主産業の漁業を支える源となっている。また、支流は松前公園を横断し、松前城の内堀に流れ込む貴重な源流となっている。この流域ではかつて稲作が行われ、ホタルが生息する自然豊かな環境にあった。しかし、時代の変遷とともに農地が荒廃しホタルも姿を見せなくなった。当該活動は、十数年前にホタルの棲む自然を取り戻そうと流域の清掃活動を発端に、環境美化活動を小規模に進めてきた。近年ホタルの数は少しずつ増えてきたことから、活動の輪を広げ、環境教育や総合学習の中で、地域固有のさくら風景とホタルが棲みつく環境保全、主産業を支える魚付きの森、観光資源としての活用を目指す。
特定非営利活動法人 しりべつリバーネット	尻別川でのカワヤツメ資源復活を目指して 一カワヤツメの復活と治水安全度高める 自然豊かな尻別川の川づくりを！	尻別川下流域 (二セコ町、蘭越町)	自然豊かな尻別川、清流日本一を誇る尻別川を将来ともに維持させるために川の楽校や河川清掃、植樹などの活動を行っているが、尻別川での地域産業としていたカワヤツメの内水面漁業が閉鎖に追い込まれている。ヤツメ資源の減少は全国的な課題でもあるが、河川の環境問題なのか、海域の環境変化なのか多くの課題を残しており、研究も不足している。このような状況の中で、尻別川においてカワヤツメの回復・復活を目指しカワヤツメの生態行動調査及び河川環境調査を行い、将来、カワヤツメを対象とした内水面漁業組合の復活を目指し、地域産業の発展に貢献させるとともに、治水・防災機能を備えた自然再生事業の提案を行っていくものである。
深川いきがえるバスターズ	外来生物アズマヒキガエルの駆除事業	深川市	1.アズマヒキガエルを地域から排除する活動 ①繁殖する池で成体(カエル)・卵・幼生(オタマジャクシ)を徹底的に捕獲・除去。 ②繁殖池の近くの放置された古い池を重機で取り壊す。 ③池の周囲の除草・枝払い等の環境整備。 2.情報発信・普及啓発 ①会報、②会報特別版、③ホームページ、④マスコミ取材や依頼講師などを通して、アズマヒキガエル等の外来動物に関する情報や駆除活動の成果を地域内外に広く発信。



2021年北海道e-水プロジェクト 採択団体一覧表しずくコース(※上限10万円)

団体名	事業名	活動地域	事業概要
旭山自然調査隊	水辺の命 みんなの守るもの	札幌市	水辺の生き物と森について学び考えることで森と水・生き物のつながりを知り、集水域の環境を守る活動です。
一般社団法人小樽セーリングクラブ	海から行く、小樽市赤岩海岸クリーン活動	赤岩の海岸線 (小樽市)	海からしか行けない小樽市赤岩の海岸にヨットとSUP(スタンドアップパドル)で上陸してごみ拾いとビーチコーミングをします。祝津から赤岩までの海岸は、多くの漂着ごみが散乱していて漂着ごみが年々増えています。この海岸は崖が続き、陸上から行くのは難しく、海から行かないと海岸をきれいにはできません。海で活動するヨットやSUPの特性を活かした水環境の保全活動です。またビーチコーミングで漂着物を観察したり、漂着物の学習会を開催し海の豊かさを学びます。
特定非営利活動法人 オホーツク自然・文化ネットワーク	オホーツク海沿岸地域を特徴づける 希少な草本類と昆虫類の広域調査	オホーツク海沿岸 地域(斜里町)	昨年のシブツナイ湖沿岸地域の調査により、オホーツク海沿岸の一部の地域にしか分布しないとされるトモシリソウが、広範囲で分布する可能性があることが示された。トモシリソウは環境省RDBでは「絶滅危惧Ⅱ類」、北海道RDBでは「絶滅危惧種」とされている。また、オホーツク海沿岸でしか確認されていないカラフトキリギリスにおいても、その分布が確かめられていない。そこで、本調査では、トモシリソウやカラフトキリギリスを指標として希少な草本類と昆虫類の分布状況を、オホーツク海沿岸の広域において調査を行い、環境省および北海道のレッドリストに資するデータを得ることを目的とする。そして、今後の環境保全活動および賢明な利用のための基本データとする。
コドモくらす	水辺から再発見!「水辺de幼稚園」	旭川市	幼児や小学生が地域の川で遊び、地域の自然や生き物について知る機会を増やす事を目的として、幼稚園を対象とした水辺のプログラムを作り、幼稚園の活動で実践すると共に、水辺の遊びワークショップを開催し、水辺の活動に興味を持つサポーターの育成をはかる。 ◎幼稚園水辺活動プログラム実施 4回 ◎水辺ワークショップ 2回 1回目:現地調査及びプログラムづくり(スタッフ等対象) 2回目:水辺で遊びたい親と先生のためのワークショップ(一般及び先生対象)
清滑川水系資源教育推進実行委員会	滝上ウキウキリバー探検隊	清滑川水系 流域(滝上町)	清滑川の水質の良さと、周辺の自然環境の質は、国内・道内でも屈指のレベルであり、後世に残すべき資源として保全と活用が求められている。こうした保全すべき資源の認知と次世代に繋げるためのアクションとして、子どもたちに対する環境教育、清滑川への関心を高める読書活動、流域資源の特色を生かした教育を実践できる人材育成を展開する。また、滝上町の地域性を活かす取組みとして、各団体と連携を図り保全を進める一方で、清滑川の水質の高さだけでなく、清滑川水系以外の資源との関連性と重要性を認識し、その魅力を地域内外に発信することで地域の振興策に寄与する。
白老町環境町民会議	ヨコスト湿原自然環境調査	ヨコスト湿原 (白老町)	環境省認定の「重要な湿地」である、ヨコスト湿原に生息する植物や鳥類等の資料を収集・整理する。平成22年度に地元有識者が中心となり、自然環境調査を実施しているため、その調査結果と比較検討ができるよう取り進める。助成金の使途は、主に調査員の交通費に充てる。
地域協働まちづくり会議 高栄小学校区きずな	高栄南公園ビオトープ環境整備	高栄南公園 (北見市)	昨年活動した結果をメンバーで考察し、北海道立総合研究機構 研究主幹三上氏に質問という形式で回答を頂き、その回答を参考に昨年よりも科学的な調査を行い、40年前に圃地造成時にビオトープとして保全された、公園内の池をビオトープとしての価値の低下と景観の悪化により、身近な親水体験ができなくなっている現状を改善する為、本年度は藻・泥の機械的除去、池の底の地形調査と整生、破損した木柵などの撤去と岸辺の整備を行い、地域の子供たちや住民が水辺に親しみ、環境学習の実施ができる場にするための活動を実施する。
手稲さと川探検隊	札幌手稲の水中生動調査 ～手稲の川をのぞいてみると～	星置川ほか (札幌市)	これまで水棲生物の観察は、たも網などで捕獲して水槽で行っている。しかし水槽での観察では、川の中で暮らしている時のような本来の姿を見ることができない。生物本来の姿から自然を身近に感じ、水棲生物に対する興味をより深めるため、川の中での実際の生態を水中カメラで捉えて観察する。また撮影した映像を配信することで、より多くの人、そして川に行けない環境にある障害を抱えている人、更にはコロナ禍でイベント開催が困難な状況でも、上記の目的をある程度果たすことができる。
十勝川中流部市民協働会議	自動撮影カメラによる人工湿地に飛来する 水鳥類モニタリング	十勝川中流部 (帯広市)	十勝川中流部にある人工湿地(再樹林化防止を目的として掘削された)の維持管理を通じて、2020年からSDGsへの取り組み活動を行っている。この中で、SDGsへの取り組み目標のひとつである「陸の豊かさ」について、2020年度は「減少し続ける生物種を環境の多様化による増加あるいは維持すること」を目標に生物モニタリングを実施した結果、205種から7種類(鳥類1種類、昆虫類6種類)の増加を確認した。今後もモニタリングを継続する予定だが、水鳥類の確認種が少ないことから、2021年度は自動撮影カメラを設置してモニタリングを行うことにより、この湿地に飛来する水鳥類を把握することで今後の維持管理、そして保全方法に関する情報を得る。
公益財団法人日本野鳥の会 ウトナイ湖サンクチュアリ	ウトナイ湖サンクチュアリ開設40周年記念イベント 美々川すいすいツアー	美々川、ウトナイ湖 周辺(苫小牧市)	美々川とウトナイ湖の魅力や、保全上の問題を伝えるため、日本野鳥の会のレンジャーと、ネイチャーセンターのボランティアが案内するツアーです。まず、ウトナイ湖に流れ込む美々川の源流部を歩き、自然環境(植生や水質等)や生物(野鳥、植物、魚類等)を観察します。その後、レンジャーの自然解説付きで、地元のツアーガイドによる美々川カヌー下りを体験いただけます。最後に、ウトナイ湖サンクチュアリに戻り、ウトナイ湖の自然やラムサール条約湿地について解説します。一連の体験を通して美々川やウトナイ湖の自然環境の重要性、水の大切さ、そして当会が目標に掲げる「第8原野をラムサール条約湿地に」の活動についてもお伝えします。
特定非営利活動法人 ビオトープ・イタンキin室蘭	「獲物のあるビオトープ」での自然体験	イタンキ浜 (室蘭市)	ビオトープ・イタンキは「獲物のあるビオトープ」です。シオカラトンボの翅のブルブル、網の中ではねるトモミ、小さな狩りの体験に子ども達は夢中になります。2007年体験学習が可能となった直後から小学生を中心に「授業としての自然体験」を受け入れてきました。教室での事前学習の1週間ほど後に子ども達が網を持ってビオトープを訪れます。安全についての少しの注意の後、子ども達は水に入り網を振ります。草場で蝶やバッタを追う子もいます。当日の獲物について解説を受け、飼育を希望する者は持ち帰ることもできます。こうした喜びの体験を通して生きものが好きになり地球環境の問題に関心を持つ大人に育ってくれることを願っています。
Friends of Shari River 斜里川を考える会	斜里川のイトウ見守りプロジェクト	斜里川流域 (斜里町)	これまでの当会の調査により、斜里川水系には現在でも僅かにイトウが生息していることが明らかになっています。確認されている産卵河川は1本のみで、産卵範囲は非常に狭い上に、釣りの人気区域であること、距水の流入が多いこと、カワウの飛来が増えているなど不安定な環境にあることが解ってきています。このことから、産卵や稚魚の生息状況調査、産卵期の見守りを行うとともに、カワウ飛来調査を実施します。さらに、道内他地域のイトウ保護団体との連携、教育機関等と連携した子供向けの啓発活動、釣人への呼びかけを実施すること等で関心を高め、保護に向けた機運を高めます。
特定非営利活動法人 北海道エコレゾリューション推進プロジェクト	環境共生型汚水処理システムのモニタリングと普及啓発	余市町	2019年度に作成した汚水処理システムの継続的な性能評価と普及啓発のため、下記の取り組みを実施する。 ①汚水処理システムの維持・拡張のためのメンテナンスと調査 ②汚水処理システムの研究成果の公開発表とワークショップの実施 ①については、2019年に作成したシステムの一部を分解し、汚泥の付着状態などの調査やサンプリングを実施する。②については、汚水処理の専門家を招聘し、2020年に実施した継続調査の研究成果の一般公開と、汚水浄化に関するワークショップを実施する。